

## 「トビーキッズのたんけん隊 第3回 秋のたんけん」

## 1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
36	101	36	32名(4名欠席)

## 2. 事業内容(概要)

## ◆ねらい

若狭湾や近隣地域の自然の中で思い切り遊ぶことを通して、自然と親しむ心と体を育む。  
自然の中で様々なチャレンジを通して、意欲を高め、自信を付ける。  
四季を通して体験を通して、地域の自然の豊かさ、面白さに気づく。

## ◆期日・期間

平成30年10月20日(土)～10月21日(日) 1泊2日

## ◆連携機関

福井、岐阜、愛知、滋賀、京都 各府県教育委員会

## ◆参加者分析

参加確認票に書かれた保護者のメッセージを読むと、これまでの2回のたんけんを踏まえ、子供達は3回目の実施を楽しみにしていた様子であった。また、夏休み中に自分から進んで家の仕事を手伝ったりする様子が書かれていた。本事業の影響だけではないと思うが、それでも、保護者からの文書を読ませてもらうと、自立した子供達の様子が伝わってきた。

## ◆日程

10月20日(土)	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	受付	はじまりのつどい	昼食(レストラン)	オリエンテーション	秋のたんけん① 秋の黒道を歩こう	かみなか農楽舎まで 秋を感じながら歩こう	テント泊準備	夕食(野外炊事)	「畑の恵みを味わおう」	入浴	就寝	テント泊(かみなか農楽舎泊)	ふりかえり		
10月21日(日)	起床	朝のつどい 朝食(野外炊事)	秋のたんけん② 「畑のお手伝い」	自然の家に帰ろう	昼食(レストラン)	冬のけいかく 秋のまとめ	おわりのつどい								

## ◆企画のポイント(日程・特色など)

第3回は自然の家の外に出て、地域の自然に親しむこと、自然の家以外の地域の講師の方(かみなか農楽舎)に教わることを軸に活動を考えた。

### ◆運営のポイント

秋のたんけんについても班編成については変更せず、春たんけんと同じメンバーで組んでいる。子どもの様子をよく知っている大学生ボランティアについてもらえるよう、ボランティアについても同じ班を担当できるようにした。

### ◆ハイキングにおける安全管理について

- ・天候に配慮し、荒天であればハイキングコース、宿泊場所の変更など対応するようにした。
- ・各班担当のボランティアに無線を1台持ってもらい、何かあれば連絡が取れるようにした。
- ・チェックポイントを2か所設け、必ずそのポイントを通過するようにさせた。
- ・車の往来が多い道は歩かず、農道など車通りの少ない道を歩かせるようにした。

## 3. アンケート結果

### (1) アンケート

#### <参加者>

項目	4	3	2	1	未記入
事業全体をとおしてどうでしたか	67%	14%	10%	6%	3%
この事業の運営はどうでしたか	64%	20%	3%	10%	3%
ハイキングはどうでしたか	77%	10%	10%	0%	3%
かみなか農楽舎での野外炊事やキャンプ、農業体験はどうでしたか	84%	0%	10%	3%	3%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

### (2) 参加者の声

- あそびながらハイキングをしたからたのしかった。
- くりやどんぐり、きのみなどあつめてたのしかった。
- たのしかったし、やさいのピーマンやサツマイモがほれました。
- えさやりがたのしかった。
- テントをたてるのがたのしかった。
- いもでとんじるを作るのが楽しかったです。
- 歩くのは大へんだったけれど、秋をみつけられてよかったです。
- きつかったけれど、たのしかった。
- たのしかった。あと、おいしかった。
- つかれた。(3人)
- さいしょはたのしかったけれど、だんだん足がいたくなかった。
- いそがしかった。
- もうすこし早くねたかった。

## 4. 成果と課題

### 4. 成果と課題

#### (1) 成果

- ハイキングでは長い距離にもかかわらず、全員が歩き切ることができた。
- 秋の動植物を一生懸命探すなど、ハイキングを通して秋を感じようとする様子が見られた。
- 野外炊事やテント設営での協力する様子や、早く帰ることになった班の友達を見送るときの声掛けなどから、仲間と随分打ち解け、集団としても高まってきていると感じた。
- 回数を重ねたこともあり、テント設営、野外炊事にも慣れてきている。
- 野外炊事ではカレー以外のメニューに挑戦した。サツマイモは固く、包丁で切るのも子どもの力では大変だったと思うが、ボランティアにサポートしてもらいながら頑張って切っていた。
- 炊飯の係になった子供達は、最後まで火の様子を見たり、羽釜から出る湯気の匂いに気を付けたりしながらかまどでご飯を炊くことができた。
- かみなか農楽舎での収穫体験や草取りなど、いろいろなことに挑戦してみようという様子が見られた。

○ピーマン、ニンジン、なすといった、一般的に子供が苦手とする野菜を使っての調理であったが、自分たちで収穫した野菜、採れたての野菜を使って調理したこともあり、子供達は「美味しかった」と感想にあったように、どの野菜も残さず食べていた。

### (2) 課題 (特に運営面で)

- 毛布の準備などはしていたが、それでもテント泊で寒さを感じた子供達がいた。この時期のキャンプでは十分な防寒対策も必要。
- 時間がおしていたこともあり、せっかくの農業体験の時間も十分に確保できなかった。子供達にも準備をしてくださっていたかみんな農楽舎にも申し訳なかった。
- 子供達の感想に「いそがしかった」とあった。ボランティアスタッフからの意見にも時間的な余裕の少なさ、休息時間の不足を感じたという意見があった。活動の初めから最後まで時間に追われている感があった。日没が早い時期であるので、16:00には野外炊事に取りかかれるようなプログラムとゆとりのある時間配分が必要であった。

## 5. 活動の様子 写真 (数枚)

### ハイキング



### テント設営



### 収穫体験 (サツマイモ)



### 野外炊事 (夕食…ごはん・豚汁)



収穫体験（ピーマン）



野外炊事（朝食…ごはん・みそ汁・野菜の炒め物）



畑のお手伝い（サツマイモのツルの片付け、エサやり）



ふり返り

